

### 平成19年度予算と施策

## 今年度の特色ある事業

# 市民の生活に直結した取り組み

本年度、市が力を入れて取り組む施策のうち、

- ▽日本一子育てしやすいまちづくり
- ▽暮らしを豊かにする基盤づくり
- ▽災害に強く、市民の安全と安心が確保されるまちづくり

について、皆さんの生活に密着した特色ある事業をいくつか紹介します。文中の(一)内は平成19年度予算額で、1万円未満は四捨五入しています。



博多区子どもプラザで長男の颯汰くんと遊ぶ定永さん夫妻



明るい日差しに包まれた博多区子どもプラザで気軽に親子が遊ぶ

## 子どもたちの笑顔あふれるまち

**子どもたちを社会で見守る**

市は、平成19年4月から、毎月1〜7日を「いっしょにふくおか・子ども週間」と定め、個人や企業(職場)、地域にそれぞれの立場でできる範囲の取り組みを行います。(次世代育成支援対策推進法に基づき、平成19年4月1日から、毎月1〜7日を「いっしょにふくおか・子ども週間」と定め、個人や企業(職場)、地域にそれぞれの立場でできる範囲の取り組みを行います。)

また、働く女性が安心して生み育てられる環境づくりの調査・検討をスタートします。(次世代育成支援対策推進法に基づき、平成19年4月1日から、毎月1〜7日を「いっしょにふくおか・子ども週間」と定め、個人や企業(職場)、地域にそれぞれの立場でできる範囲の取り組みを行います。)



今年2月、博多市民センターに隣接してオープンした博多区子どもプラザ

## 就学前の子ども医療費負担金を無料化

市は平成19年8月1日から乳幼児医療費助成制度の助成対象を拡大します。これは、若い子育て世代が子どもを安心して生み育てられる環境づくりを推進するための一環です。

平成19年1月から、それまで自己負担だった3歳未満の初診料・往診料を無料化しましたが、それをさらに推進。平成19年8月診療分から就学前の乳幼児医療対象者全員の保険診療にかかる医療費の自己負担分を無料化します。

ただし、病床数200床以上の大病院で紹介状がない場合にかかる初診時特定療養費など保険診療外の費用や、入院時食事療養費等はこれまでどおり自己負担です。

詳しくは、住所地の区役所(出張所)保険年金担当課へお問い合わせください。

メール:hokennenkin.PHWB@city.fukuoka.jp

子どもプラザは区に1か所開設

「子どもプラザ」は、核家族化・少子化など子育て環境が変化する中、孤立しがちな乳幼児親子の不安を軽減するため、市が各区に設置している子育て支援の拠点です。乳幼児親子が気軽に集い、遊びや子育てに関する情報交換などが行われています。

平成19年2月には博多市民センターの横に「博多区子どもプラザ」がオープン。乳幼児の親子がいつでも利用できる場所として市民に親しまれています。

## 大学の中に誕生する 早良区子どもプラザ

この夏、市は7番目の子どもプラザとして、西南学院大学本館1階(旧学外連携推進室事務室)に「早良区子どもプラザ」を開設します。同プラザは、市が西南学院大学に委託し、同大学と連携して運営するものです。ここでは、保育士などの専門知識を持ったスタッフや常勤するほか、同大学の学生や教職員もボランティアとして活動します。また、外国人乳幼児親子への対応や大学の専門家による相談・講座の開催も予定しています。

「お母さんと子どもの組み合わせが多いですが、お父さんたちも一緒に来てほしいですね」と話していました。



西南大の学外連携推進室・塚田さん

市は、これをきっかけに子育て支援や市民と大学の交流、地域のまちづくり活動への支援などにつながればと期待しています。